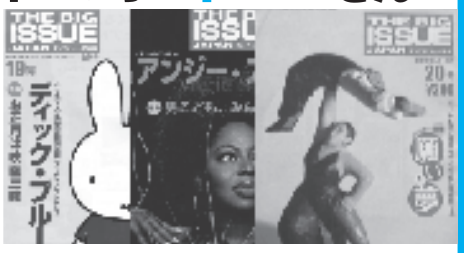
ビッグイシュー事務所にて（写真提供：（有）ビッグイシュー日本）

（有）ビッグイシュー日本 代表取締役

佐野章二（さの しょうじ）さん



プロフィール

1941年、大阪市生まれ。地域・都市プランナーとして仕事をするかたわら、市民活動やNPO活動にも参加し、日本初の「政治倫理条例」（堺市）の取りまとめと制定などに関わる。阪神・淡路大震災の時には3つのボランタリー組織（「通勤型」「地元型」「ポスト震災型」）を立ち上げるなど、支援の輪を広げた。

01年6月NPO「シチズンワークス」を設立し、「ホームレス問題研究講」での議論を経て、03年5月㈲ビッグイシュー日本を起業した。著書に「ボランティアをはじめるまえに―市民公益活動」（公人の友社）ほか。

ホームレスの自立を市民の立場で支援します

大阪の梅田周辺やナンバ、天王寺などの路上で、「THE BIG ISSUE JAPAN ビッグイシュー日本版」という雑誌が販売されている。この雑誌を発行している「㈲ビッグイシュー日本」の代表取締役が佐野章二さんである。

もともと雑誌「ビッグイシュー」は、91年にロンドンで誕生。世界27ヵ国で発行されており、「ビッグイシュー日本版」は03年9月、佐野さんらの手で創刊された。現在は月2回の発行。若者をターゲットに、国際記事から映画、音楽の特集、エンターテイメントまで内容は幅広く、第3号からは東京へ進出した。

同誌の最大の特徴は、販売人が全員ホームレスの人たちであるということ。「救済ではなく、雑誌販売という仕事を作って、自立を応援する事業なのです」と佐野さん。

販売する人は、1冊90円で仕入れた雑誌を200円で販売し、110円を得る。「1日30冊（3300円）売れれば、ドヤ（簡易宿泊）代と食費、タバコ代などが支払え、とりあえずホームレス状態から脱出できる」というわけだ。これが自立への第1ステップ。

第2ステップで貯蓄をしてアパートに移る。「つまり住所を持つことになります」。さらに第3ステップで「新しい仕事を探し、就職する」のだが、現在は「昨年9月に月2回発行に踏み切ったのが、第2ステップへのスタート」という段階だ。

「日本のホームレス問題は、彼らの働く場所をつくれば8割がた解決します」と公言する佐野さんは、大阪生まれの大阪育ち。疎開先から帰った江戸堀界隈の焼け野原の風景を、今も覚えている。高校での生徒会役員時代に培われた、「揺れ動いている社会と自分がどう関わるのか」という思いは、60年代の大学時代も変わることはなかった。

市民活動に関わりだしたのは、結婚を機に堺市に引越し、子育てを始めたころだ。「急ごしらえで、保育所も幼稚園も、ショッピング施設も不足していた」団地内で、保育所づくりなどの住民活動に関わり、ミニコミ紙の発行も。活動の中で佐野さん自身も、地域づくりや町づくりのノウハウを身に付けるのである。

勤め先を退職して、地域問題や都市問題のリサーチやプランニングの仕事を主とする地域調査計画研究所を設立したのが80年。仕事や、01年に立ち上げたNPO「シチズンワークス」での市民研究講を通じて、ホームレス問題に関心を持つようになる。

「『ビッグイシュー　日本版』創刊にあたっては、何十万人という一時的な“ホームレス”を生んだ阪神大震災での救済活動に携わったことが大きいですね。」被災者の残像は、大阪のホームレスとオーバーラップする。「僕が愛している大阪で、ホームレスが日本一多いというのは見過ごせませんね。6千や7千の野宿生活者に、普通の暮らしをさせられないほど力の無い大阪だとは思っていませんから」。この熱い思いが、佐野さんのエネルギー源なのだろう。

今年の夢は?と水を向けると、「就業トレーニングをやれる非営利団体を設立したいですね。新しい団体と有限会社が両輪となって初めて、軌道に乗ったといえますから」と口元をほころばせた。

（文・脇本勤／表紙写真・高島悠介）